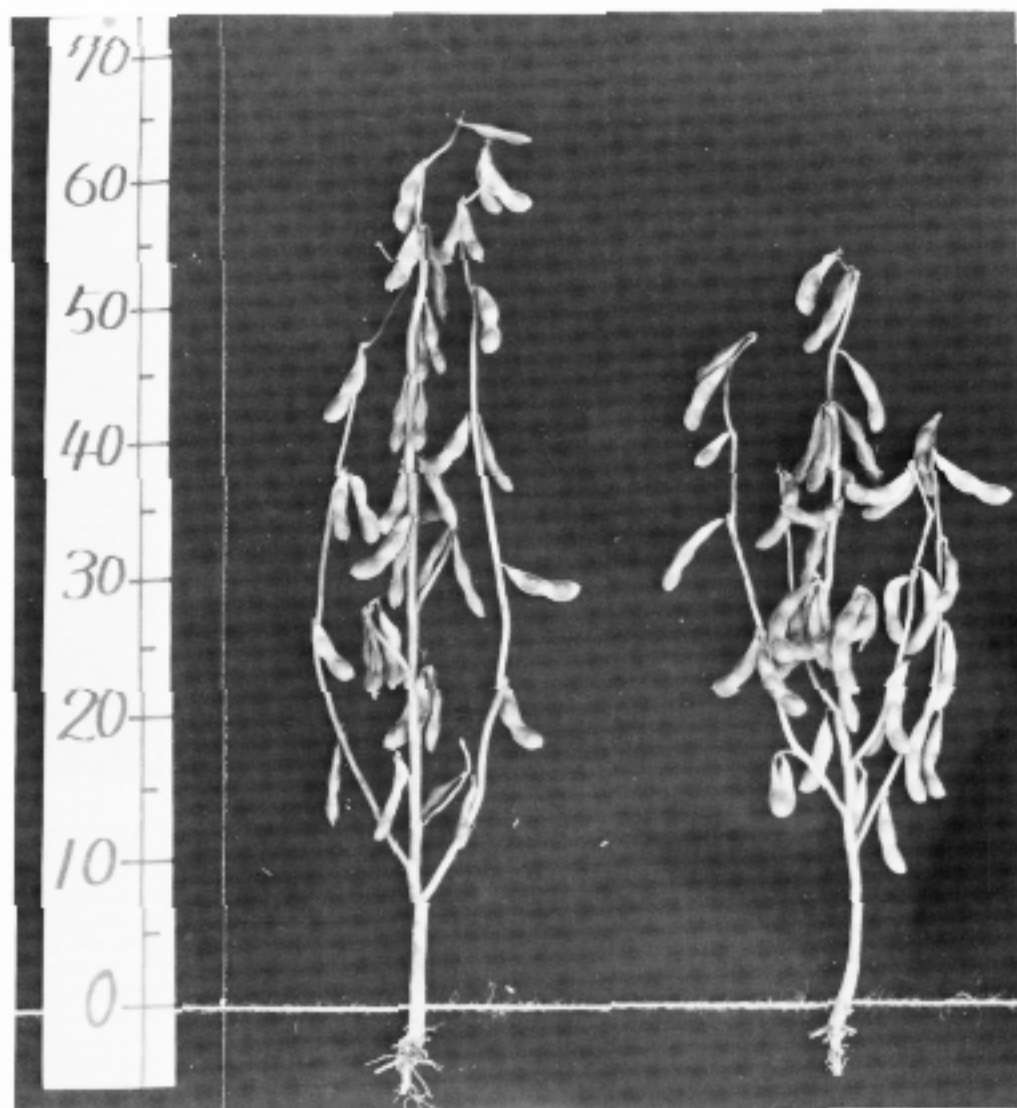
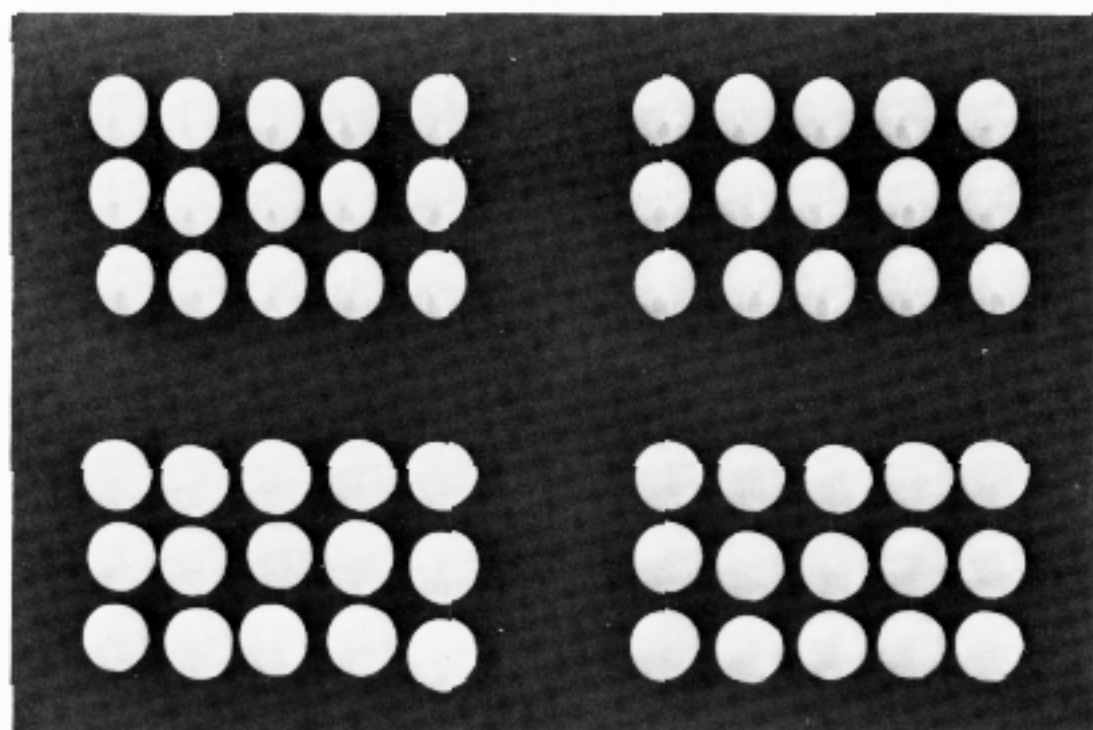


[ユウヒメ]



ユウズル

コウヒメ



ユウズル

コウヒメ

ユウヒメ

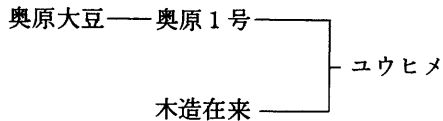
登録番号 大豆農林 68号
登録年月 昭和 54年 6月
旧系統名 大豆中育 8号
育成場所 道立中央農業試験場

1. 来 歴

だいた「ユウヒメ」は、昭和42年北海道立中央農業試験場において、白目大粒、良質、多収品種の育成を目的として、早生種「奥原1号」を母とし、極晩生、白目、大粒種「木造在来」を父として人工交配を行ない、以来選抜固定を図ったものである。

昭和49年より「中系23号」の系統名で生産力検定予備試験を行ない、系統適応性試験に供試した。昭和50年より「中育8号」の系統名で生産力検定試験を行なうと同時に、道内関係機関の奨励品種決定基本調査ならびに奨励品種決定現地調査に供試し、適応性の検定を行なった。さらにマメシンクイガ耐虫性検定試験、ダイズわい化病特性検定試験、栽培特性検定試験に供試した。昭和53年度においてF₁₁代である。

(系 統 図)



2. 形 態 的 特 性

主茎長は「ユウヅル」より約13cm短く、主茎節数も2～3節少ない短茎種である。分枝数は「ユウヅル」よりやや多く、開張する。胚軸色は紫で、小葉の形は円葉、花色は赤紫、毛茸色は白、莢は淡褐色を呈する。粒形は豊満な球形、種皮色はやや黄白で、臍色は黄である。子実の百粒重は「ユウヅル」よりやや小さいが、約40gで極大に属する。子実の粒揃いは「ユウヅル」並みであり、種皮の亀裂粒、しわ粒は「ユウヅル」より少なく、外見的品質は良好である。

3. 生 態 的 特 性

発芽期は極大粒種であるため、小粒種より1～2日程度遅れるが、初期生育は旺盛である。開花期は「ユウヅル」より約6日早く、成熟期も12日前後早い中生種に属する。

耐倒伏性は「ユウヅル」より強く、普通程度の肥沃地に栽培する場合は、ほとんど倒伏しないか、しても軽微である。また裂莢性はほぼ「ユウヅル」並みである。

耐虫性、耐病性については、マメシンクイガの被害は「ユウヅル」並みで多く、ダイズわい化病に対しては抵抗性はないが「ユウヅル」より発病率は低い。ダイズシストセンチュウに対する抵抗性因子は持っていない。また耐冷性は「ヒメユタカ」並みである。

収量性は「ユウヅル」と同程度で、熟期が早いので比較的安定している。
 増肥に対する反応は比較的によく、栽植密度については密植で多収の傾向を示す。

4. 子実成分

粗蛋白含量は「ユウヅル」よりやや低く、粗脂肪含量は「ユウヅル」よりやや高い。

5. 適地

本系統は空知中部以南、石狩、後志、胆振、日高およびこれらに類似する地帯に適する。

6. 奨励品種採用県

北海道（昭和54年）

7. 栽培上の注意

「ユウヒメ」は「ユウヅル」なみの極大粒種で、中～小粒種に比し発芽にやや多くの日数を要し、発芽率が低下することがあるので、必ず種子消毒を行なうこと。

ダイズわい化病に対しては他の品種と同様、抵抗性をもたないので、防除を励行すること。

大粒種は概してマメシンクイガの被害が大きく、そのため品質を著しく損うことがあるので必ず防除を行なうこと。

茎長が短いため、疎植よりはやや密植することによって多収が得られるのでa当り800株程度を確保すること。

8. 試験成績

(1) 特性及び生育調査成績（昭和50～53年，4ヶ年平均）

品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	結実日 数(日)	倒伏 程度	主茎長 (cm)	分枝数	主茎 節数
ユウヒメ	7.23	10.1	70	少	48	5.3	12.1
ユウヅル	7.29	10.13	76	中	61	4.1	14.7

品種名	胚軸色	小葉の 形	花 色	毛茸色	莢 色	粒 形	粒 大	種皮色	臍 色	虫 害
ユウヒメ	紫	円	赤 紫	白	淡 褐	球 や 扁 球	極 大	黄 白	黄	多
ユウヅル	緑	円	白	白	褐	球 や 扁 球	極 大	黄 白	黄	多

(2) 収量調査

ア 標準栽培

品種名	子 実 重 (kg/a)					対 標 準 比 (%)				
	昭50	昭51	昭52	昭53	平均	昭50	昭51	昭52	昭53	平均
ユウヒメ	27.5	31.8	33.4	43.5	34.1	92	113	97	117	105
ユウヅル	30.0	28.1	34.3	37.2	32.4	100	100	100	100	100

イ 栽植密度及び施肥量試験

品種名	栽植密度	子実重 (kg/a)	対標準比 (%)	施肥量	子実重 (kg/a)	対標準比 (%)
ユウヒメ	標準	31.0	100	標準	31.5	100
	密植	38.5	124	1.5倍	32.0	102
	疎植	27.7	89	2倍	33.8	107
ユウヅル	標準	30.7	100	標準	29.5	100
	密植	33.9	110	1.5倍	30.8	104
	疎植	27.5	90	2倍	31.8	108

注 1) データは昭和50～52年の3ヶ年平均
 2) 施肥量, 標準肥 (a 当り) N : 0.2 kg, P₂O₅ : 0.6 kg, K₂O : 0.47kg, MgO : 0.13kg, 1.5倍肥は標準肥の1.5倍施用, 2倍肥は標準肥の2倍施用。
 3) 栽植密度: 密植は60cm×10cm, 標準は60cm×20cm, 疎植は60cm×30cm, いずれも1株2本立。

(3) 特性検定試験成績

検定名	項目	ユウヒメ	ユウヅル	実施場所	
マメシクイガ抵抗性	平均虫食粒数率 (%)	22.0	18.5	道立中央農試原々種農場 (昭和50～53年, 4ヶ年平均)	
	判定	弱	弱		
ダイズわい化病抵抗性	発病率 (%)	中央農試	32.5	71.3	道立中央農試 (昭和50～53年, 4ヶ年平均)
		伊達市	83.2	99.2	
	判定	弱	極弱		

(4) 品質調査成績

品種名	百粒重 (g)	粒の整否	裂皮の多少	粗蛋白質 (%)				粗脂肪 (%)				品質
				昭50	昭51	昭52	平均	昭50	昭51	昭52	平均	
ユウヒメ	41.0	整	極微	40.2	38.6	38.7	39.2	21.6	18.9	21.3	20.6	上中
ユウヅル	41.8	整	微	41.8	40.6	40.7	41.0	19.2	17.4	19.0	18.5	上下

注 百粒重は昭和50～53年の平均
 粗蛋白質, 粗脂肪の分析は北海道農試

9. 配布先における成績

(1) 現地試験における成績

場所	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏	主茎長 (cm)	子実重 (kg/a)	対標準比 (%)	百粒重 (g)	品質	年次
平取町	ユウヒメ	7.26	9.24	少	59	26.9	110	41.8	上下	昭50～53年
	ユウヅル	7.31	10.7	少	79	24.4	100	42.8	上下	
恵庭市	ユウヒメ	7.21	9.24	無	53	31.4	105	40.8	上下	昭53年
	ユウヅル	7.26	10.7	無	62	30.0	100	42.6	上下	
岩見沢市	ユウヒメ	7.23	9.23	無	39	33.4	98	35.0	上下	昭53年
	ユウヅル	7.27	10.6	無	45	34.0	100	38.1	上下	
共和町	ユウヒメ	7.24	10.1	少	48	23.3	99	35.4	上下	昭50～53年
	ユウヅル	7.28	10.7	少	55	23.6	100	39.9	上下	
蘭越町	ユウヒメ	7.27	9.26	少	51	29.1	102	41.2	上下	昭50～52年
	ユウヅル	8.4	10.8	中	70	28.4	100	43.2	上下	
倶知安町	ユウヒメ	7.28	10.3	少	64	27.0	116	38.3	上下	昭50～53年
	ユウヅル	8.3	10.11	少	70	23.3	100	36.5	上下	
京極町	ユウヒメ	7.26	10.4	無	51	23.5	100	39.5	中上	昭50～53年
	ユウヅル	7.29	10.16	少	63	23.6	100	40.2	中上	
真狩村	ユウヒメ	7.26	9.28	中	66	39.5	118	42.8	-	昭52～53年
	ユウヅル	7.31	10.8	中	83	33.4	100	42.0	-	

場 所	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏	主茎長 (cm)	子実重 (kg/a)	対標準 比(%)	百粒重 (g)	品 質	年 次
伊 達 市	ユウヒメ	7.20	9.18	中	60	28.5	91	34.4	中 上	昭52~53年
	ユウゾル	7.25	9.28	多	69	31.2	100	41.4	上 下	
新篠津村	ユウヒメ	7.16	9.28	無	62	42.7	125	40.1	上 中	昭53年
	ユウゾル	7.20	10.13	無	72	34.1	100	39.8	上 上	

10. 育 成 従 事 者

年 次	世 代	育 成 従 事 者		
昭42	交配	諏訪隆之, 千葉一美, 谷村吉光		
43	F ₁	"	"	"
44	F ₂	"	"	"
45	F ₃	森 義雄	"	"
46	F ₄	"	"	"
47	F ₅	"	"	"
48	F ₆	"	"	"
49	F ₇	"	"	"
50	F ₈	"	谷村吉光, 松川 勲	
51	F ₉	後木利三	"	"
52	F ₁₀	"	"	"
53	F ₁₁	"	"	"